

令和元年度 家庭教育支援プログラム指導者研修④ 実施報告

実施日：令和元年7月19日（金）

○ 演習「学びを支援するコミュニケーション」

親学習プログラムのファシリテーターは、学びの場において参加者が活動しやすくなるよう支援するとともに、進行の舵取りをする役割を担います。更には、参加者の気持ちや言葉を引き出したり、受け止めたりしながら話し合いを進めていくことも求められます。

今回の演習では、①アイスブレイクの意義、②自己紹介のポイント、③聞き方のポイント、④伝え方のポイントの4点を、体験を通して学びました。ファシリテーターとして参加者とコミュニケーションをとる際にどのようなことを意識したらよいか、そしてどのように行動したらよいか、受講者は演習を通して学びました。



○ 演習「親学習プログラムファシリテーター演習に向けて」



グループを編成し、ファシリテーターとしてのプログラム展開に向けて演習を行いました。各グループともプログラムを読み込み、限られた時間の中で展開するためにどう工夫するとよいか、留意しなければならないことはどのようなことか、それぞれ確認し合いました。



展開案が固まったグループは、その計画で進めることができるか、参加者に意図がきちんと伝わるかなど、実際の展開場面を想定しながら練習に励みました。熱心に協議しながらファシリテーションする様子から、各班とも、次回の研修にかける意気込みがとても感じられました。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・コミュニケーションのよさ、価値を再認識しました。実践的な研修でした。
- ・伝え方や聞き方のポイント、ファシリテーターとしての細かな声かけなど、様々なことについて学ぶことができました。今度のファシリテーターとしての演習に生かしていきたいと思いました。
- ・グループによるファシリテーター演習は、実践に役立つ有意義な研修だと思います。発表に向けて、協力してがんばりたいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp